

地域団体との意見交換会の概要について
(林業分野)

【林業分野】地域の団体・事業者との意見交換会の概要について

| 区分 | 実施日 | 地域団体等参加者数（人） | | | | |
|-------|---------|--------------|--------------|-----------------|----------------|----|
| | | 森林組合 | 川上 (素材生産) | 川中・川下 (加工流通) | その他 (特用林産等) | 計 |
| 安芸地域 | R5.7.12 | 2 | 1 | 3 | 3 | 9 |
| 中央東地域 | R5.6.20 | 3 | 1 | 3 | | 7 |
| 嶺北地域 | R5.6.21 | 4 | 4 | 3 | 1 | 12 |
| 中央西地域 | R5.7.11 | 2 | 6 | 1 | | 9 |
| 須崎地域 | R5.7.10 | 3 | 1 | 3 | | 7 |
| 幡多地域 | R5.7.7 | 5 | 1 | 2 | 1 | 9 |
| 計 | | 19 | 14 | 15 | 5 | 53 |

1 地域の現状と課題の確認

(1) 川上（増産・造林）

- 個人の森林所有者が皆伐で得た収入を再造林に再投資することは少ない。
- 森林所有者等の高齢化により境界の確認が困難になっている。
- 機械化が進んでいない再造林や下刈りの効率化が必要。
- 植栽後の野生鳥獣害が問題。植栽木についてネットや単木保護が必要。
- 林業機械の導入に係る補助の要件が厳しい。
- 樹木が大径化しており、林業機械の大型化が必要。
- 林道に土場が少なく、原木を効率的に搬出しにくい。
- 林道等について基幹道の整備が不十分。
- 林道に接続する下方道である県道や市町村道にも狭い箇所があり、拡幅等の改良が必要。

(2) 川中（製材加工・バイオマス）

- 木材価格は、山主、素材生産業者、製材事業体にとって厳しい状況。
- 燃料費や電気代は高騰しているが、製品価格には反映されていない。
- 大径材の製材が可能な機械はあるが、製品の販売先の確保が難しいのが現状。
- 大径材を加工するには設備を変える必要があり、大径材が搬出されても製材事業体で処理しきれない。
- 製材加工側と原木生産側の間で樹種、径級や供給量などのミスマッチが生じ、川下が求めるものを供給できていない。
- 中小零細業者の倒産、廃業が止まらない。

(3) 川下（流通・販売）

- 大径木由来の製品の需要が今のところない。

(4) 担い手育成

- 人が地域に残るにはしっかり給料を支払える経営基盤が必要。
- 人を雇用しても、一人前になるまでには多くの時間がかかる。
- 再造林を担う人材がいない。
- 林業就業者数が増加しなければ、林業機械の導入ができず、原木の増産は難しい。
- 人材を確保していくためには魅力ある林業職場とする必要がある。
- 町の人口が減っている状況で、林業で魅力ある職場を作れと言われても、町に暮らす基盤が無いと人は戻ってこない。

2 現在の県産業振興計画の評価

(1) 川上（増産・造林）

- 大型製材工場の整備等の木材利用の拡大の取組、林業大学校等における人材育成、森の工場事業等による森林整備等に係る補助により、林業は大きく前進したと思う。
- 事業量が増加したり、担い手不足が解消したとの実感はない。

(2) 川中（製材加工・バイオマス）

- 資本力のある大型量産工場が増加し、二極化が進んでいる。
- バイオマス発電施設の整備により、低質材の活用先が増えたことは大きな一歩だと思う。

(3) 川下（流通・販売）

- CLT 工法の認知度はまだ低い。

(4) 担い手育成

- 喫緊の課題である担い手の確保は、進展していない。
- 林業大学校の効果が非常に高く、優秀な人材が輩出されている。

3 県産業振興計画の次のステージに望むこと

(1) 川上（増産・造林）

- 将来の林齢構成を考慮して長いビジョンを持った高知の林業（山）のあり方を示してほしい。
- 傾斜などを考慮して再造林するところ／しないところを考えていく方が良いのではないか。
- 苗木の生産について、挿し木苗の普及。
- C材、バイオマス用材は高く売れるようになったが、一般用材も高く売れるような施策。
- 事業体に求めるレベルの違いを明示しながら事業体の育成支援をしてほしい。その際には、生産性のみでなく、安全性も評価することが必要。
- 10tトラックが通れる基幹作業道の充実。
- 基盤整備が重要であるが、全てを良くすることは難しいため、絞り込んだ支援が必要。

(2) 川中（製材加工・バイオマス）

- 大径材を加工できる製材工場が必要。
- 大径材に付加価値をつけて販売する体制が必要。

(3) 川下（流通・販売）

- 土佐材の販路拡大に力を入れてほしい。
- 高知の木材が使われる自然な流れの構築。県産材を勧めている工務店や設計士に対する支援。
- 構造材として利用にこだわらず、内装材としての利用を見据えた世界の市場への展開。
- 運送の2024年問題への対策、支援。内航船を使う航路の獲得ができれば、安い金額で納品できるのではないか。
- CLT 工法については、建築単価も高く、低価格になる施策が必要。

(4) 担い手育成

- 県、市町村が協力した移住者を増やすような取組と併せて、労働人口の流出を防ぐ施策。
- 林業で専業を求めるのは難しい。様々なことに興味を持っている方が多いため、兼業する仕事の一つとして林業があるという形への支援。
- 機械化による女性の雇用促進。
- 技術を継承する人材の育成支援。
- 林業の未来を担う学生に対して森林学習を取り入れ、山に興味を持ってもらえるような施策。